『光る君へ4』

忘れじの行く末まではかたければ けふかぎりの命ともがな

ぎどうさんしのはは たかしなのきし
儀同三司の母 高階貴子

【現代訳】

「いつまでも忘れない」という言葉が、遠い将来まで変わらないというのは難しいでしょう。だから、その言葉を聞いた今日を限りに命が尽きてしまえばいいのに。

作者の高階貴子は中関白藤原道隆の妻となり 一条皇后定子、儀同三司
(伊周)、隆家、隆円 3男4女をもうけました。伊周、隆家が花山法皇に弓矢を
射掛ける長徳の変で太宰権帥、出雲権帥に流されると、同行を出立の車に取りつ
き願ったが許されず、その後すぐに病にかかり薨去しました。伊周は約1年後、恩赦
で許されて京にもどりました。

儀同三司は準大臣のことで三司(太政大臣、左大臣、右大臣)と儀が同じとい
う意味です。伊周は陣定め^{じんのだ}に出席の際、儀同三司を名乗りました。

山陽小野田かるた協会 小田広行